

CASIO®

P

5227 * JA

取扱説明書

5227

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
未長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取
扱いただきますようお願い申し上げます。

本機を安全に正しくお使いいただくための注意事項「安全上のご注意」を本書に
記載しています。本機をご使用になる前に、必ずお読みください。

なお、この説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。

※ 本書に記載の製品イラストの中には、視認性を考慮して、実際のものとは異
なる描写を行っているものがあります。ご了承ください。

■ 本機の特徴

- 太陽電池で充電するソーラーパワー
- 正確な時刻を表示（電波時計）

— ご使用前に十分に光を当ててください —

本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定してお使いいただくために、本書に従って、光が当たるようにしてお
使ってください。

（充電時間については、7 ページの「ソーラー充電について」をご参照くだ
さい）

安全上のご注意

絵表示について 本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠ 警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は「気をつけるべきこと」(注意)を意味しています(左の例は感電注意)。



⊘記号は「してはいけないこと」(禁止)を意味しています(左の例は分解禁止)。



●記号は「しなければならないこと」(強制)を意味しています(左の例は電源プラグをコンセントから抜く)。

警告

本機をスキューバダイビング（アクアラング）に使用しないでください。

- 本機はダイバーズウォッチではありません。誤って使用すると、事故の原因となります。



電池の取り扱いについて

本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

注意

お手入れについて

ケース・バンドは汚れからサビが発生し、衣服の袖口を汚すことがあります。ケース・バンドは常に清潔にご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとサビ易くなります。

注意

かぶれについて

時計の本体およびバンドは、直接肌に接触していますので、使用状態によってはかぶれを起こす恐れがあります。

- ① 金属・皮革に対するアレルギー
 - ② 時計の本体およびバンドの汚れ・サビ・汗等
 - ③ 体調不良等
- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは余裕をもたせてご使用ください。
 - 「抗菌防臭バンド」は汗などによる細菌の繁殖を抑え、においの発生を防ぐもので、皮膚のかぶれを防ぐものではありません。
 - 万一、異常が生じた場合は、ご使用を中止し、医師にご相談ください。

分解しないでください

本機を分解しないでください。ケガをしたり、本機が故障する原因となることがあります。





注意

ご使用にあたって

時計表示の確認は、思わぬ転倒やケガの予防のため、十分に安全が確認された場所で行ってください。特に、道路でのマラソンやジョギング、自転車やバイク・自動車等の運転中は事故の原因になることがありますので、十分にご注意ください。また、第三者への接触による事故防止にも十分にご注意ください。

時計着脱の際に、バンドの中留で爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。特に、長く伸ばした爪では、中留の操作はおやめください。

思わぬケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、就寝時は時計をはずすなど十分にご注意ください。

幼児を抱いたり、接したりする場合は、幼児のケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、時計をはずすなど十分にご注意ください。

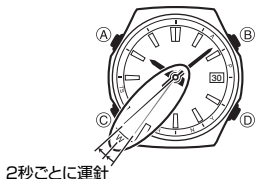
お使いになる前に

■十分に光を当ててください

本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。保管期間により電池容量が減っている場合がありますので、お使いいただく前に十分に充電してください。詳しくは7ページをご覧ください。

●充電切れ予告

二次電池の容量が少なくなると、時刻表示で秒針が2秒ごとに運針を行い、充電不足をお知らせします。詳しくは8ページをご覧ください。



■パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに本機を放置すると自動的に針の動きを停止してスリープ状態にし、節電する機能です。文字板に光をあてるかボタン操作をすることでスリープ状態は解除されます。

※ 針は停止していますが、時計内部では時を刻み続けています。

※ 時計が袖などで隠れている場合でも、スリープ状態になることがあります。

〈参考〉スリープ状態になるには

●スリープレベル 1

午後 10 時～午前 6 時の間、暗いところで本機を約 1 時間放置します。

- 秒針がその場で停止します。
- ※ 時針、分針、日付表示は動きます。
- ※ 自動受信は行います。

●スリープレベル 2

スリープレベル 1 のまま暗いところで 6～7 日間経過します。

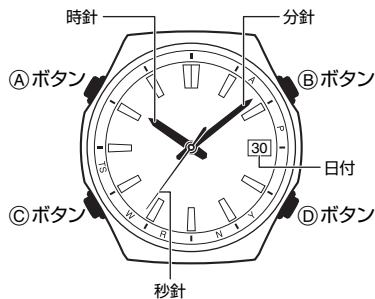
- 時針、分針はその場で停止します。
- 自動受信は行いません。
- ※ 日付表示は動きます。

目次

安全上のご注意	表紙裏面	時刻を進めて使う	16
お使いになる前に	4	時刻の進め方	16
十分に光を当ててください	4	時刻を戻すとき	17
パワーセービング機能について	4	時刻・日付の合わせ方	18
操作のしくみと表示の見方	6	「時刻」、「日付」を修正する	18
ソーラー充電について	7	針／日付の基準位置合わせ	21
電波時計について	10	製品仕様	24
電波時計とは	10	ご使用上の注意	26
標準電波	10	お手入れについて	29
電波の受信範囲の目安	11	本製品で使用している電池について	30
受信時間について	11	金属バンドの駒詰めについて	30
電波受信を行うときの場所について	11		
受信方法について	12		
自動受信	12		
手動受信	13		
受信結果の確認	14		
受信に関するご注意	14		
こんなときには	15		

操作のしくみと表示の見方

※機種により形状や文字板の印刷内容が異なります。



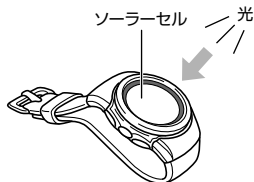
- (A) ボタン
1回押すと受信結果を確認できます (14 ページ参照)。
- (C) ボタンを約 2 秒間押し続けると、どの状態からでも時刻表示に戻ります。
- 電波受信については 10 ページをご覧ください。

ソーラー充電について

本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。

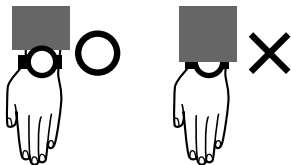
安定した状態でお使いいただくためには、本機のソーラーセルに光が当たるようにしてお使いください。

- 腕から外したときは文字板（ソーラーセル）を明るい方に向けて置くなどして、充電を心掛けてください。



蛍光灯下や窓際などの光が当たる所に置いてください。

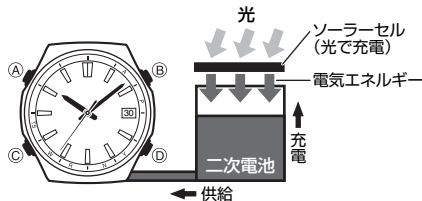
- 腕に付けているときはなるべく衣類の袖が文字板（ソーラーセル）にかからないように使用してください。



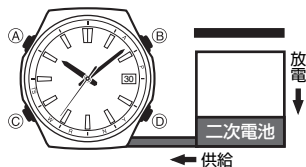
一部でも袖に隠れていると、充電効率が著しく低下します。

- 光が当たっているときと当たっていないとき

<光が当たっているとき>



<光が当たっていないとき>



時計は光が当たっていないときでも常に動いていますので、このままでは二次電池の容量が減って機能が使えなくなります。

●リカバー状態について

電波受信などを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、一時的に運針を停止し、全ての機能が使えなくなる場合があります。

時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。

●充電切れ予告

二次電池の容量が少なくなると、時刻表示で秒針が2秒ごとに運針を行い、充電不足をお知らせします。

※ 時計機能停止状態になっても再度充電を行うと使用できます。

※ 時計機能停止状態から充電したときは、十分に充電されると針が現在時刻の位置まで移動します。

※ 通常状態になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。

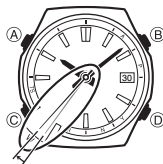
●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。

- 炎天下に駐車している車のダッシュボードの上
- 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
- 直射日光が長く当たって、高温になる所

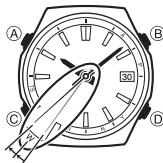
充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようご注意ください。

〈通常状態〉



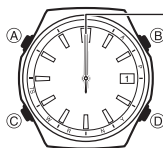
1秒ごとに運針 ↓ 充電不足になると

〈充電警告状態〉



2秒ごとに運針 ↓ 更に充電不足になると

〈機能停止状態〉



午前12時になると、日付が1日(基準位置)へ移動します。

<注意>

以下の機能は使用できません。

- 自動受信および手動受信

12時位置で停止

秒針が12時位置で停止し、時計、分針は午前12時に運針を停止します。

●充電の目安

- 1日、安定した状態で時計を使用するために必要な充電時間

※ 1日当たり電波受信を約4分間行った場合。

環境（照度）	充電時間
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約8分
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約30分
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約48分
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約8時間

※ こまめに充電を行えば、安定した状態でご使用いただけます。

●各レベルに回復するための充電時間

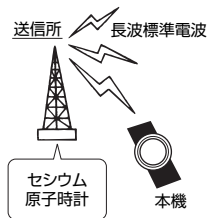
環境（照度）	充電時間	
	運針開始まで	フル充電まで
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約2時間	約26時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約6時間	約93時間
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約9時間	---
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約101時間	---

※ この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のずれが生じます。

■ 標準電波

- 日本の標準電波（JJY）は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県の「おたかどや山（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山（60kHz）」から送信されています。

※ 標準電波や送信所に関する情報は、変更になる場合があります。

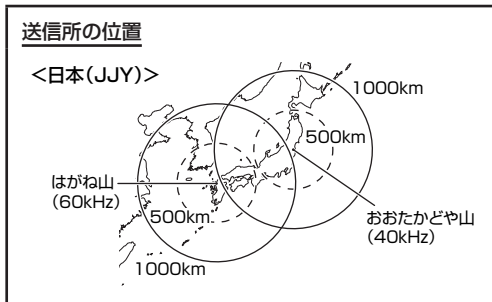
日本の標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。

詳しい情報は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）日本標準時プロジェクトのホームページをご覧ください。

<http://jy.nict.go.jp/>

※ ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

■ 電波の受信範囲の目安



● 受信環境により、図の範囲内でも電波を受信できない場合があります。内側の円の範囲を越えると電波が弱くなりますので、受信環境の影響はより大きくなります。

※ 受信に影響を与える環境・・・地形、建物、天気、季節、時間帯（昼・夜）、各種ノイズ

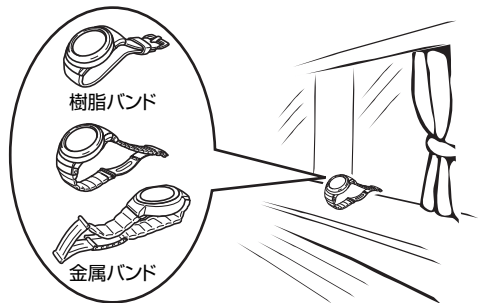
■ 受信時間について

受信時間はおよそ2～7分です。

※ ただし、周波数を変えて再受信するため、最大14分かかる場合があります。

■ 電波受信を行うときの場所について

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。



● 時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。

● 受信中、時計を動かさないようにしてください。

● ご注意

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行ってください。

※ 電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



ビルの中およびその周辺
(ビルの谷間など)



高圧線、架線の近く



乗り物の中
(自動車、電車、飛行機など)



家庭電化製品、
OA 機器のそば
(テレビ、スピーカー、
FAX、パソコン、
携帯電話など)



電波障害の起きるところ
(工事現場、空港のそば)
など



山の裏側…など

受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■ 受信方法について

受信方法には、以下の 2 種類があります。

- 自動受信：1 日最大 6 回
- 手動受信：必要なときに、ボタンを押して受信を行います。

■ 自動受信

- 自動受信を行うときは、以下の操作を行ってください。
 - 6 ページの「操作のしくみと表示の見方」に従って時刻表示にする。
 - 下記の表中の「自動受信開始時刻」前に、11 ページの「電波受信を行うときの場所について」に従って本機を置く。
- 下記の表中の自動受信開始時刻になると、1 日最大 6 回、自動的に受信を行います。ただし、1 日 1 回受信が成功すれば、それ以降、その日の自動受信は行いません。

自動受信開始時刻	
1	午前 12 時
2	午前 1 時
3	午前 2 時
4	午前 3 時
5	午前 4 時
6	午前 5 時

★ 受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、修正した時刻を表示します。

★ 受信が失敗すると

時刻修正は行わずに、時刻表示に戻ります。

■ 手動受信

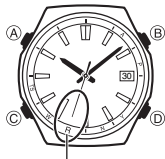
必要なときに、ボタンを押して受信を行います。

- 手動受信を行うときは、以下の操作を行ってください。
 - 6 ページの「操作のしくみと表示の見方」に従って時刻表示にする。
 - 11 ページの「電波受信を行うときの場所について」に従って本機を置く。

時刻表示のとき、

A ボタンを約 2 秒間押し続けます

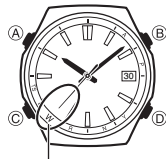
- ➡ 秒針が電波受信結果を表示後、「READY」(または「R」)位置に移動します。
- ※ 時針、分針は通常通り動きません。



READY(またはR)

★ 受信中は

- 秒針が「WORK」(または「W」)位置に移動します。
- ※ 時針、分針は通常通り動きません。
- ※ 受信が完了するまで、時計を動かさないでください。
- ※ 受信環境によっては、受信動作が安定するまで、秒針が「READY」(または「R」)位置と「WORK」(または「W」)位置とを繰り返し移動することがあります。



WORK(またはW)

★ 受信完了

- 受信が成功すると、時刻を修正し、秒針が動き出します。時刻修正後、秒針が「YES」(または「Y」)位置に移動します。
 - ※ 約 5 秒後に時刻表示に戻ります。
- 受信が失敗すると、秒針が「NO」(または「N」)位置に移動し、受信操作前の時刻に合わせて秒針が動き出します。
 - ※ 約 5 秒後に時刻表示に戻ります。



YES(またはY)
NO(またはN)

★受信を中止するときは

いずれかのボタンを押します

■受信結果の確認

時刻表示のとき、

Ⓐ ボタンを押します

⇒受信結果確認状態になり、受信結果を表示します。受信が成功しているときは秒針が「YES」(または「Y」)を指し、受信が失敗しているときは「NO」(または「N」)を指します。

※時刻表示に戻すには、Ⓐ ボタンを1回押します。

※約5秒間何も操作を行わないと、自動的に時刻表示に戻ります。



YES(またはY):成功

NO(またはN):失敗

受信結果は受信ごとにリセットされます。

■受信に関するご注意

- 充電切れ予告の状態のときは電波受信を行いません。
- 自動受信中にボタン操作を行うと、受信を中断します。
- 受信は送信されている電波の届く範囲内で行ってください。ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯(昼・夜)などによってうまく受信できないことがあります。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行ってください。
- 電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
- 電波受信を行わないときは、製品仕様に記載の精度範囲で動きます。
- 極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。
- 本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■ こんなときには

1. 電波が受信できません。

- 電波受信環境が悪い場所にいませんか。
電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行ってください（12ページの「ご注意」参照）。
- 電波が受信できない地域にいませんか。
電波受信ができる地域は、11ページの「電波の受信範囲の目安」をご覧ください。
- 電波の送信が中断していませんか。
電波時計が利用している標準電波は、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれています。

- 電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行います。時計内部の演算処理等により若干（1秒未満）のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻が合っていません。

- 針が基準位置からずれていませんか。
強い磁気や衝撃を受けると、針や日付が基準位置からずれることがあり、正しい時刻を表示できません。本機は1時間に1度、自動的に針の基準位置を合わせます。詳しくは21ページの「針／日付の基準位置合わせ」をご覧ください。
- 時刻を進めて使う（または遅らせて使う）ように設定していませんか。
詳しくは16ページの「時刻を進めて使う」をご覧ください。

時刻を進めて使う

〈重要〉

以下の操作を行うと、電波で受信した正確な時刻を表示できなくなります。正しく読んでお使いください。

本機は電波受信した時刻よりも、時計を10分進ませて使いたい場合などに便利です。

例えば以下の操作で10分進ませたあとは、電波を受信した場合でも、10分進んだ時刻を表示します。

■時刻の進め方

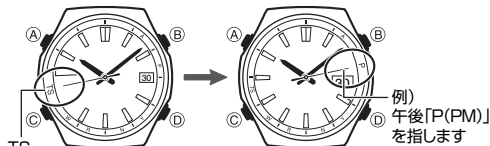
正確な時刻を表示した時計（電波時計）、テレビの時刻表示、「時報サービス117番」などを確認しながら操作します。

1. セット状態にする

時刻表示のとき、

◎と◎ボタンを同時に押します

→秒針は「TS」を指したあと、現在の時刻の午前「A (AM)」／午後「P (PM)」を表示して止まります。

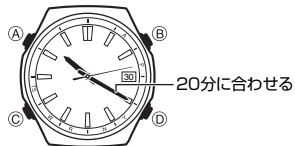


2. 時分をセットする

テレビの時刻表示などで正確な時刻を確認しながら、進めたい時刻に合わせます。
※秒針は停止していますが、時計内部では動き続けているので、秒をセットする必要はありません。

→◎ボタンを押すごとに1分ずつ進み、◎ボタンを押すごとに1分ずつ戻ります。

例) 午後10時10分から、10分進める場合
本機以外の正確な時刻を見ながら、その時刻に10分足した時刻「10時20分」に合わせます。



※◎・◎ボタンとも押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるにはいずれかのボタンを押します。
※1分単位で、現在の時刻より-23時間59分～+23時間59分の範囲で設定できます。

- ※ 正午、または日付をまたいで時刻を変更した場合は、秒針の表示も AM ↔ PM と連動します。
- ※ 日付をまたいで時刻を変更した場合は、日付表示も連動します。
- ※ 16 ページの「時刻を進めて使う」の操作手順 **1.** ～ **3.** で本機の時刻を遅らせて使うこともできます。

3. セットを終了する

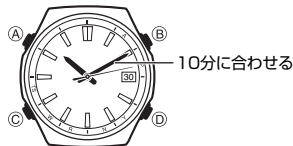
◎ ボタンを押します

- ⇒ 時刻表示に戻り、進めた時刻が表示されます。
- ※ テレビの時刻表示などで正確な時刻を確認しながら、進めた時刻を正しく表示しているか確認してください。正しくない場合は、再度、上記の操作手順 **1.** ～ **3.** を行ってください。

■ 時刻を戻すとき

16 ページの「時刻の進め方」の操作手順 **1.** ～ **3.** で戻します。

- 手順 **2.** の 例) 正確な時刻の午後 10 時 10 分に戻す場合。

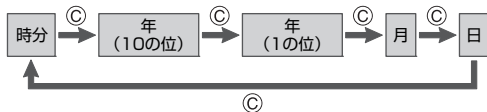


- 手順 **3.** では、テレビの時刻表示などで正確な時刻を確認しながら、本機が時刻を正しく表示しているか確認してください。正しくない場合は、再度、操作手順 **1.** ～ **3.** を行ってください。

時刻・日付の合わせ方

電波受信ができない場所で本機をお使いになる場合も、以下の操作で時刻や日付を合わせてください。

※ 時刻、日付の修正は、時刻表示で行います。修正できる項目は、**C** ボタンを押すごとに、以下の順で切り替わります。



■ 「時刻」、「日付」を修正する

1. セット状態にする

時刻表示のとき、

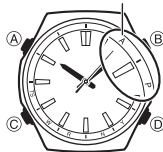
A ボタンを約5秒間押し続けます

⇒ 秒針が午前「A (AM)」または午後「P (PM)」を指します。

※ セット状態で2～3分間何も操作を行わないと、自動的にセット状態が解除されます。

なお、セット状態が解除されるまでに行った変更は保持されます。

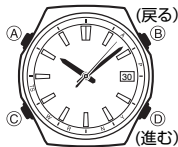
「A (AM)」または「P (PM)」を指します



2. 時分を修正する

D または **B** ボタンを押します

⇒ **D** ボタンを押すごとに1分ずつ進み、**B** ボタンを押すごとに1分ずつ戻ります。



※ ①・② ボタンとも押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるにはいずれかのボタンを押します。

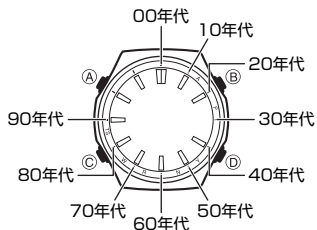
3. 年（10の位）を修正する

③ ボタンを押します

⇒秒針が現在の年（10の位）の位置を指します。
※ 秒針の位置で西暦の10の位を表します。

④ ボタンを押します

⇒④ ボタンを押すごとに、10年分ずつ進みます。



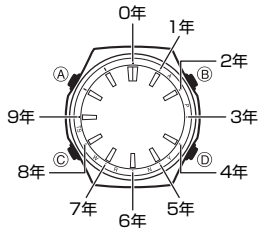
4. 年（1の位）を修正する

③ ボタンを押します

⇒秒針が現在の年（1の位）の位置を指します。
※ 秒針の位置で西暦の1の位を表します。

④ ボタンを押します

⇒④ ボタンを押すごとに、1年分ずつ進みます。



5. 月を修正する

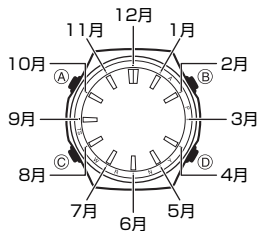
◎ ボタンを押します

⇒ 秒針が現在の月の位置を指します。

※ 秒針の位置で月を表します。

◎ ボタンを押します

⇒ ① ボタンを押すごとに、1 月ずつ進みます。



6. 日付を修正する

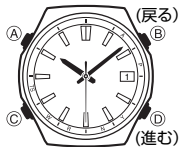
◎ ボタンを押します

⇒ 日付が少し動き、日付を修正する状態になります。

※ 秒針は月を指して停止したままです。

◎ または ② ボタンを押します

⇒ ① ボタンを押すごとに 1 日ずつ進み、② ボタンを押すごとに 1 日ずつ戻ります。

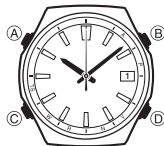


7. セットを終了する

◎ ボタンを押します

⇒ セット状態が解除され、秒針が 0 秒から動き始めます。

※ 時報に合わせて押すと、正確に合わせられます。



針／日付の基準位置合わせ

※ 強い磁気や衝撃を受けると、針や日付が基準位置からずれることがあり、電波受信を行っても正しい時刻を表示できません。以下の操作を行って針や日付の基準位置を確認し、ずれている場合は、基準位置を合わせてください。

※ 時刻や日付が合っているときは、針／日付の基準位置合わせを行う必要はありません。

1. 基準位置確認状態にする

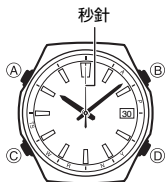
時刻表示のとき、

ⓑ ボタンを約 3 秒間押し続けます

→ 押し続けると約 3 秒後に秒針が基準位置に移動して停止します。秒針が停止したらボタンを離します。

〈基準位置〉

秒針：12 時位置



★ 秒針が基準位置にある場合は、手順 3. に進みます。

※ 基準位置確認状態で 2～3 分間何も操作を行わないと、自動的にセット状態が解除されます。

なお、セット状態が解除されるまでに行った変更は保持されます。

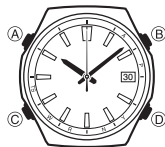
— 秒針がずれている場合 —

2. 基準位置を合わせる

ⓓ ボタンを押します

→ 針が時計回りで回転しますので、基準位置に合わせます。

※ ⓓ ボタンを押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押します。



3. 時・分針を確認する

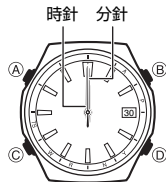
◎ ボタンを押します

⇒ 時・分針が基準位置に移動します。

〈基準位置〉

時針：12 時位置

分針：12 時位置



★ 時・分針が基準位置にある場合は、手順 5. に進みます。

— 時針と秒針がずれている場合 —

4. 基準位置を合わせる

◎ または ◎ ボタンを押します

⇒ ◎ ボタンを押すごとに進み、◎ ボタンを押すごとに戻ります。



※ ◎・◎ ボタンとも押し続けるとボタンを離しても針が連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押します。

5. 日付を確認する

◎ ボタンを押します

⇒ 日付が基準位置に移動します。

〈基準位置〉

日付：1 日



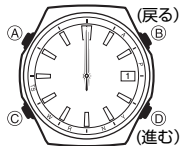
★ 日付が基準位置にある場合は、手順 7. に進みます。

— 日付がずれている場合 —

6. 基準位置を合わせる

◎ または ◎ ボタンを押します

⇒ ◎ ボタンを押すごとに進み、◎ ボタンを押すごとに戻ります。



※ ◎・◎ ボタンとも押し続けるとボタンを離しても連続して動き続ける早送り状態になります。早送り状態を止めるには、いずれかのボタンを押します。

7. 基準位置合わせを終了する

① ボタンを押します

⇒時刻表示に戻り、通常の時刻を表示します。

※ ① ボタンを押さずに ③ ボタンを押すと、最初の秒針の基準位置確認に戻りません。



基準位置合わせが終了したら、時刻や日付・曜日などがずれていないことをご確認ください。

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz

精 度：電波受信による時刻修正が行えない
場合は、平均月差±15秒以内

基 本 機 能：時・分（10秒運針）、秒、日付

電波時計機能：自動受信・手動受信
受信結果確認機能
受信局自動選択機能（JJY40/
JJY60）
受信電波＝
コールサイン：JJY(40kHz/60kHz)

そ の 他：自動復帰機能、
パワーセービング機能
時刻を進めて使う（または遅らせて
使う）

使 用 電 池：二次電池

持 続 時 間：約5ヵ月
（光に当てないで、1日あたり電波
受信1回（約4分）使用した場合）

memo

ご使用上の注意

■ 防水性

- 防水時計は時計の表面または裏蓋に「WATER RESIST」「WATER RESISTANT」と表示されているもので、次のように分類されます。

	表示	時計の表面または裏蓋に表記	日常生活用防水 「BAR」表記無し	日常生活用強化防水		
				5気圧防水	10気圧防水	20気圧防水
使用例		洗顔、雨	○	○	○	
		水仕事、水泳	×	○	○	
		ウインドサーフィン	×	×	○	
		スキンドайビング(素潜り)	×	×	○	

- 専門的な潜水=スキューバダイビング(空気ボンベ使用)でのご使用はお避けください。
- 時計の表面または裏蓋に WATER RESIST または WATER RESISTANT と表示されていないものは防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
- 防水構造の機種でも水中や、水分のついたまま、りゅうずやボタンの操作をしないでください。
- 防水構造の機種でも、時計をつけたままの入浴、洗剤等(石鹸・シャンプーなど)のご使用をお避けください。防水性能を低下させる原因となります。
- 海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。
- 防水性を保つために定期的(2～3年を目安)なバッキン交換をおすすめします。

- 電池交換の際、防水試験を行いますので、必ずお買い上げの販売店あるいは「修理サービス窓口」にお申し付けください(特殊な工具を必要とします)。
- 防水時計の一部にデザイン上、皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態でも、水仕事・水泳など直接水がかかるご使用はお避けください。
- 時計が急冷された場合など、ガラスの内側が曇ることがありますが、すぐに曇りが無くなるようであれば特に問題はありません。曇りが消えなかったり、水が時計内部に浸入した場合は、そのままご使用にならず、ただちに修理することが必要です。
- 時計内部に浸入した水は、電子部品や機械、文字板などを破損する原因となります。

■ バンド

- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
- バンドは劣化やさび(錆)などにより切れたり外れたりする場合があります、時計の落下や紛失の原因となります。バンドは、常にお手入れしていただき、清潔にご使用ください。バンドに弾力性がなくなったり、ひび割れ・変色・緩みなどがある場合は、お早めに点検・修理(有償)または新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げの販売店または「修理サービス窓口」にバンド交換(有償)をお申し付けください。

■ 温度

- 自動車のダッシュボードや暖房器具の近く等の高温になる場所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったり、故障の原因となります。

■ ショック

- 通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると、故障の原因になります。ただし、耐衝撃構造の時計の場合（G-SHOCK/Baby-G/G-ms）は腕につけたままでチェーンソーなどの強い振動や、激しいスポーツ（モトクロスなど）でのショックを受けても時計には影響ありません。

■ 磁気

- アナログ時計やコンベネーション（アナログとデジタル）時計は、針を動かすために磁石の性質を利用したモーターを駆動させる方式を採用していますが、このモーターは強い磁気（オーディオ機器のスピーカー、磁気ネックレス、携帯電話など）を発生する器具に近づけるとモーターの回転に影響を受け、針の「遅れ・進み・止まり・誤った時刻表示」などの原因となります。

■ 静電気

- 静電気により誤った時刻を表示したりします。また、極度に強い静電気は、電子部品を破損する恐れがあります。

■ 薬品類

- シンナー、ガソリン、各種溶剤、油脂またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類等が付着すると、樹脂ケース、樹脂バンド、皮革などに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

■ 保管

- 長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふきとり、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

■ 樹脂製品について

- 長時間、他の製品と密着させたり、濡れたまま他の製品と一緒にしておくと、他の製品に色が移行したり、他の製品の色が樹脂製品に移行したりすることがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、他の製品に密着させたままにしないでください。
- 長時間、直射日光（紫外線）に当てたり、汚れが付着したまま放置すると色あせする場合があります。
- 塗装部は、使用状況（過度の外力、連続したこすれ、衝撃等）により磨耗し色落ちしたりすることがあります。
- バンドにプリントがしてある場合は、プリント部分を強くこすると他の部分に色がつくことがあります。
- 蛍光商品は、長時間濡れたままにしておくとし色が落ちる恐れがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとって、乾かしてください。
- スケルトン（透明）仕様の部品は、汗や汚れ等の吸収や高温多湿への放置により変色を起こすことがあります。
- 樹脂部品の交換は、「修理サービス窓口」にお申し付けください。有償にて申し受けます。

■ 天然皮革・合成皮革バンドについて

- 長時間、他の製品と密着させたり、濡れたまま他の製品と一緒にしておくと、他の製品に色が移行したり、他の製品の色が天然皮革や合成皮革に移行したりすることがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、他の製品に密着させたままにしないでください。
- 長時間、直射日光（紫外線）に当てたり、汚れが付着したまま長時間放置すると色あせする場合があります。
ご注意：天然皮革・合成皮革は、摩擦・汚れにより色を移したり、色落ちすることがあります。

■ 金属製品について

- 金属を使用した製品・バンドは、ステンレスやメッキ品でも汚れたままご使用になりますと、さび（錆）が発生することがあります。汗をかいたときや水に濡らしたときは、柔らかい吸湿性の良い布などで良く拭き取った後に、通気性の良い場所に保管し、良く乾燥させてください。
- バンドは、時々、柔らかい歯ブラシなどにより、中性洗剤を水で薄めた液や石鹼水でバンドを洗って、良く手入れをしてください。このとき、時計の本体にかからないようご注意ください。

■ 抗菌防臭バンドについて

- 抗菌防臭バンドは汗などによる細菌の増殖を抑え、においの発生を防ぎ、常に清潔で快適な装着感が得られます。抗菌・防臭の効果を上げるために、バンドの汚れ、汗、水分等は吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にしてご使用ください。抗菌防臭バンドは微生物や細菌の増殖を抑えるためのもので、アレルギー等による皮膚のかぶれ等を抑えるものではありません。

万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

お手入れについて

■ お手入れのしかた

- ケース・バンドは汚れからさびが発生し、衣服の袖口を汚したり、皮膚がかぶれたり時計の性能が劣化することがあります。ケース・バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとしび易くなります。
- 樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また布等で簡単にふきとることができます。
- 皮革バンドは乾いた布で軽く拭くなどして常に清潔にしてご使用ください。樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。
- バンドにヒビなどの異常がある場合は、必ず新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げの販売店または「修理サービス窓口」にバンド交換をお申し付けください。保証期間内であっても有償にて申し受けます。
- 時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にご使用ください。

■ お手入れを怠ると

〈さび（錆）〉

- 時計で使用している金属はさびにくい性質ですが、汚れによりさびが発生します。
 - 汚れにより酸素が絶たれると、表面の酸化皮膜が維持できなくなり、さびが発生します。
- 表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやさびがしみ出して、衣類の袖を汚したり、皮膚がかぶれたり、時計の性能が劣化することがあります。

〈劣化〉

- 樹脂バンドは汗などの水分で濡れたままにしておいたり、湿気の多い場所に放置すると経年劣化し、切れたり、折れたりすることがあります。

〈かぶれ〉

- 皮膚の弱い方や体調により、かぶれたりすることがあります。特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをしてください。万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

本製品で使用している電池について

- 専用の二次電池を使用しておりますので、お客様は電池を取り外さないでください。専用の二次電池以外の電池を入れると時計の破損の原因になります。
- 二次電池は、ソーラーセルが受ける光により充電されますので、定期的な電池交換の必要はありません。ただし、長年の充電と放電を繰り返すことにより性能が劣化して、充電しても使用時間が短くなることがあります。その場合は、お買い上げの販売店または「修理に関するお問い合わせ窓口」にご相談ください。

金属バンドの駒詰めについて

金属バンドの駒詰めには専用の工具が必要となります。お取り扱いによる、部品の変形や破損、またはケガ等を予防するためにも、お買い上げの販売店にご相談ください。

なお、「持込修理サービス受付窓口」においても保証期間内は無償、保証期間経過後は有償にて承っております。

詳しくは、「持込修理サービス受付窓口」または「修理に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。